

1. 平成 24 年の水害被害額の概要

【被害の特徴等】

- ◆水害被害額は、全国で約 3 千 5 百億円（過去 10 カ年で 4 番目）
- ◆被災建物棟数は、全国で約 5 万 1 千棟（過去 10 カ年で 3 番目）
- ◆主要な水害の被害状況
 - 梅雨前線豪雨（九州北部豪雨）（水害被害額：約 1,520 億円）
 - ・国管理河川のうち、2 河川（花月川・矢部川）で堤防決壊したほか、5 水系 7 河川で氾濫が発生
 - ・国管理河川のうち、4 水系 4 河川で観測史上最高の水位を記録
 - ・被災建物棟数のうち、全壊流失・半壊棟数の割合が過去 10 カ年で最大※²
 - 8 月豪雨（水害被害額：約 520 億円）
 - ・水害被害額のうち、一般資産等被害額の割合が約 9 割

※ 過去 10 カ年に発生した台風・豪雨のうち、被害額が 1,000 億円以上のものを対象。

(1) 水害被害額

約 3 千 5 百億円

〔内 訳〕	
・ 一般資産等被害額	169,297 百万円（構成比 48.9%）
・ 公共土木施設被害額	170,699 百万円（構成比 49.3%）
・ 公益事業等被害額	6,469 百万円（構成比 1.9%）
計	346,465 百万円

注）被害額には、人的損失、交通機関のストップなどによる波及被害、被災した企業の部品・製品供給機能、本社機能等が損なわれることによる他地域の企業への影響等に係るものは含まれていない。

(2) 水害被害の概要

①被災建物棟数 **約 5 万 1 千棟**

〔内訳〕		○全壊・流失	407 棟	○半 壊	2,460 棟
		○床上浸水	8,764 棟	○床下浸水	39,582 棟
				計	51,213 棟
※うち地下部分が浸水した建物棟数は 102 棟					

②浸水区域面積 **約 1 万 2 千 ha**

〔内訳〕		○宅地・その他	2,386ha	○農 地	9,424ha
				計	11,810ha
※うち地下の浸水区域面積は 15ha					

国土交通省では、水害（洪水、内水、高潮、津波、土石流、地すべり等）による被害額（建物被害額等の直接的な物的被害額等）等を暦年単位で「水害統計」として取りまとめています。

(3) 全国の被害

表－１ 平成24年水害被害一覧

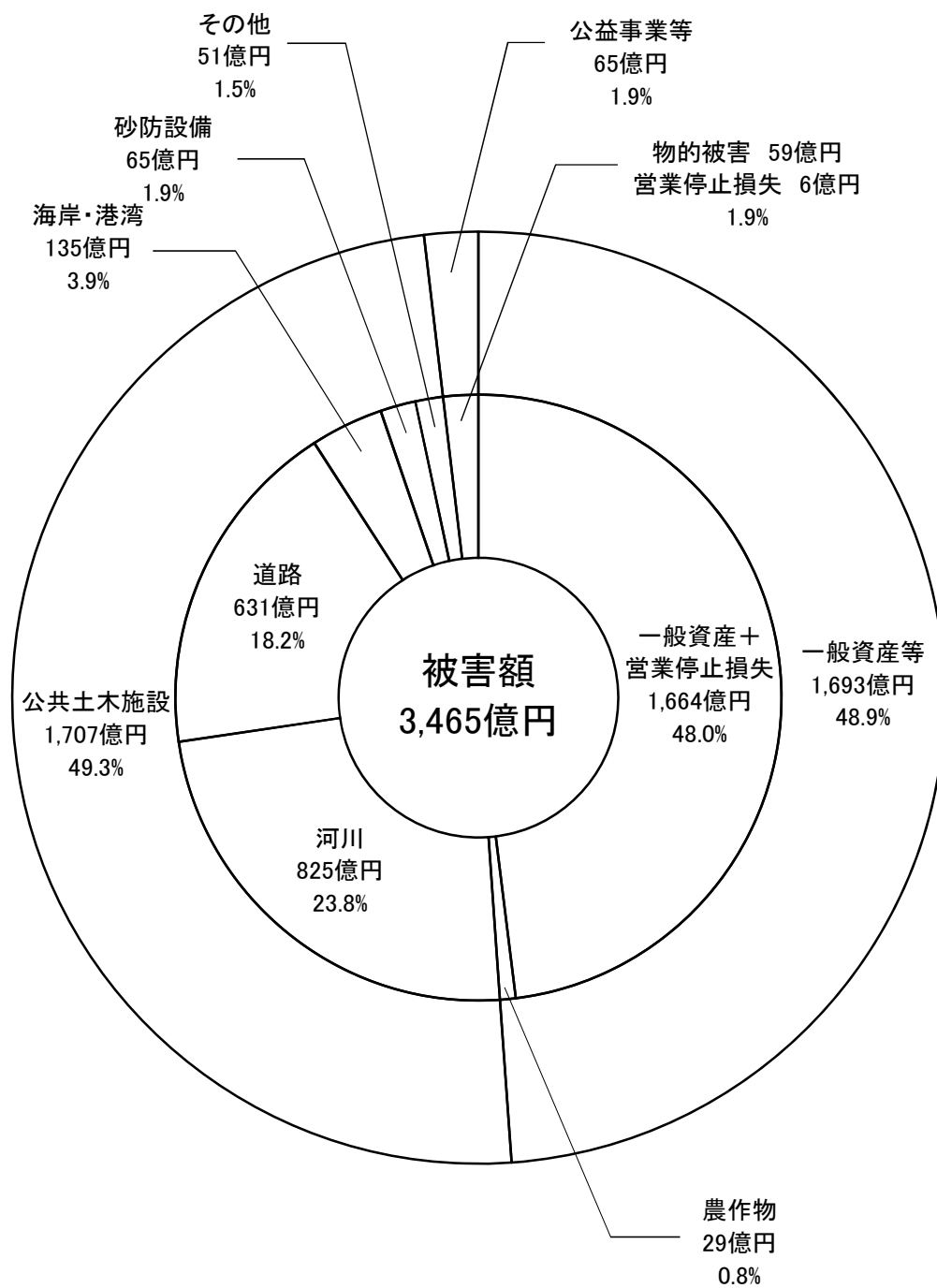
事項			単位	被害	事項			単位	被害			
死傷者数	死 者		人	36	公共土木施設被害	水系・沿岸数			833			
	行方不明		人	3		河川・海岸数			4,343			
	負 傷 者		人	103		市区町村数			860			
	計		人	142		被害額	河川		百万円	82,492		
一般資産等被害	水系・沿岸数			339			海岸・港湾		百万円	13,453		
	河川・海岸数			822			砂防設備		百万円	6,539		
	市区町村数			461			地すべり防止施設		百万円	89		
	水面積区域	宅地・その他		h a			2,386	急傾斜地崩壊防止施設		百万円	148	
		農地		h a			9,424	道路		百万円	63,104	
		計		h a			11,810	橋梁		百万円	3,078	
		地下		h a			15	下水道		百万円	296	
	家屋被害	地上	全壊・流失				棟	407	公園・都市施設		百万円	1,501
			半壊		棟		2,460	計		百万円	170,699	
			床上浸水		棟	8,764	水系・沿岸数			97		
			床下浸水		棟	39,582	河川・海岸数			151		
			地上計		棟	51,213	市区町村数			213		
	地下浸水		棟	102	公益事業等被害	運輸	物的被害額		百万円	2,562		
	被災世帯数等	地上	全壊・流失				世帯	279	営業停止損失		百万円	480
			床上浸水				世帯	8,046	計		百万円	3,042
			床下浸水			世帯	35,303	通信	物的被害額		百万円	346
地上計			世帯	43,628		営業停止損失			百万円	1		
地下浸水		世帯	54	計		百万円	347					
農漁家数		戸	223	電力		物的被害額		百万円	2,456			
事業所数		地上浸水				事業所	1,502	営業停止損失		百万円	103	
		地下浸水				事業所	31	計		百万円	2,559	
事業所従業者数		人	10,021	被害額		ガス	物的被害額		百万円	1		
被害額	一般資産	家屋					百万円	85,429	営業停止損失		百万円	0
		家庭用品					百万円	53,356	計		百万円	1
		農漁家資産				百万円	136	水道	物的被害額		百万円	494
		事業所資産				百万円	16,215		営業停止損失		百万円	26
		家庭応急対策費				百万円	7,267		計		百万円	519
		事業所応急対策費				百万円	1,736	計	物的被害額		百万円	5,859
		計				百万円	164,138		営業停止損失		百万円	610
		営業停止損失				百万円	2,281		計		百万円	6,469
	農作物		百万円			2,878						
	計		百万円	169,297								
被害額合計								百万円	346,465			

注１）死傷者数は、消防庁調べに基づき、国土交通省において水害・土砂災害を原因としない

死傷者数（例：強風による転倒等）を除いて再集計したもの。

注２）水系・沿岸数、河川・海岸数、市区町村数については延べ数である。

注３）被害額については表示単位未満を四捨五入しているため、内訳の合計数値と計は一致しない場合がある。



図－1 平成24年水害被害額構成比

(4) 梅雨前線豪雨（平成24年7月九州北部豪雨を含む）による水害被害額等

水 害 被 害 額	被 害 の 概 要
151,684 百万円 ※7月10日～7月23日に生じた梅雨前線豪雨（平成24年7月九州北部豪雨を含む）による被害額。 〔内 訳〕 一般資産等被害額 80,512 百万円 公共土木施設被害 67,134 百万円 公益事業等被害額 4,039 百万円	○死傷者数 59 名（死者 30 名 行方不明者 2 名 負傷者 27 名） ○被災建物棟数 12,433 棟 ○浸水面積 8,487ha 【 気象概況 】 ・7月11日から14日にかけて、本州付近に停滞した梅雨前線に向かって南から湿った空気が流れ込み、九州北部を中心に大雨となった。 ・7月15日から17日にかけて、梅雨前線が対馬海峡から東北地方に停滞し、沖縄・奄美地方、九州地方、近畿地方、北陸地方、東海地方、東北地方を中心に大雨となった。 ・7月18日から23日にかけて、日本付近はオホーツク海高気圧と太平洋高気圧に挟まれた気圧の鞍部となり、西から暖かく湿った空気が流入した。九州地方、四国地方、近畿地方、北陸地方の多いところで日雨量が100mmを超える大雨となった。 ・熊本県阿蘇市阿蘇乙姫(アソトビメ)では、7月11日0時から14日24時までに観測された最大1時間降水量が108.0ミリ、最大24時間降水量が507.5ミリとなり、それぞれ観測史上最高の値を記録した。これらを含め、統計期間が10年以上の観測地点のうち、最大1時間降水量で計7地点、最大24時間降水量で計8地点が観測史上最高の値を記録した。 【 被害状況 】 ・国管理河川のうち、2河川（花月川・矢部川）で堤防決壊したほか、5水系7河川で氾濫が発生し、浸水被害等が発生した。 ・国管理河川のうち、菊池川水系合志川（佐野地点）、白川水系白川（代継橋地点）、筑後川水系花月川（花月地点）及び矢部川水系矢部川（船小屋地点）の4水系4河川で観測史上最高の水位を記録した。 ・被災建物棟数（12,433棟）に対する全壊流失・半壊棟数（2,687棟）が占める割合が約22%となっており、過去10カ年に発生した被害額が1,000億円以上の水害と比較して、最も大きいものとなっている。また、水害被害額（151,684百万円）に対して、公益事業等被害額（4,039百万円）が約2.7%を占めており、過去10カ年に発生した被害額1,000億円以上の水害のうち、公益公益事業等被害額が占める割合が3番目となっている。 ・電力については、九州電力において、福岡県・大分県・熊本県内の15箇所の水力発電施設（最大出力計約17.6万kw）で被害を受け運転を停止し、九州電力の福岡県・大分県・熊本県内の水力発電所全体の最大出力（約91.2万kw）の約2割程度の被害となった。被害を受けた全施設の運転再開は約6ヶ月後の平成25年1月30日になった。 ・鉄道については、JR九州豊肥線の宮地駅～波野駅間において、坂の上トンネルの熊本県側では線路が流出、大分県側ではトンネル上部が崩落、さらには大規模な築堤崩壊の被害が発生するなど、8事業者21路線31区間で運転を休止し、全区間での運転再開は約1年1ヶ月後の平成25年8月4日になった。

注) 1. 死傷者数は、「7月11日からの梅雨前線による大雨について」（消防庁作成）の数値を使用。

2. 死傷者数は、台風による風害等を含む数値である。

(5) 豪雨による水害被害額等

水 害 被 害 額	被 害 の 概 要
52,319 百万円 ※8月11日～8月15日に生じた豪雨による被害額。 〔内 訳〕 一般資産等被害額 47,383 百万円 公土木施設被害 4,071 百万円 公益事業等被害額 865 百万円	○死傷者数 7 名（死者 2 名 行方不明者 1 名 負傷者 4 名） ○被災建物棟数 27,090 棟 ○浸水面積 466ha 【 気象概況 】 ・8月13日から14日にかけて、朝鮮半島から日本海中部へのびる前線がゆっくりと南下し、本州付近に達した。前線に向かって南から暖かく湿った空気が流れ込んだため、大気の状態が非常に不安定となり、近畿中部を中心に大雨となり、局地的に猛烈な雨が降った。 ・8月13日0時から14日24時までに観測された最大1時間降水量が、大阪府枚方市枚方(ヒカガ)では91.0ミリ、京都府京田辺市京田辺(キョウタナベ)では78.0ミリとなり、それぞれ観測史上最高の値を記録した。これらを含め、統計期間が10年以上の観測地点のうち、最大1時間降水量で計3地点、最大3時間降水量で計2地点が観測史上最高の値を記録した。また、解析雨量によると、大阪府高槻市で1時間に約110ミリの猛烈な雨を解析し、京都府宇治市では3時間に約190ミリの雨を解析した。 【 被害状況 】 ・水害被害額（52,319百万円）のうち、一般資産等被害額（47,383百万円）が約9割を占めており、水害被害額に対する一般資産等被害額が占める割合の過去10カ年平均（約48％）に比較して、大きいものとなっている。 ・電力については、関西電力管内の宇治市や京田辺市などでは広範囲で停電が発生し、停電軒数は最大2,670軒に上ったものの、復旧作業の結果、発生から5日間で全ての停電が解消された。 ・鉄道については、八幡市駅から石清水八幡宮につながる京阪電気鉄道鋼索線（男山ケーブル線）において、土砂流出などの被害が発生したことから復旧工事等のため運休し、代行バスを運行していたが、約2週間後の平成24年9月1日に運行を再開した。 ・文化財の被害については、水害統計において貨幣換算化して計上していないが、文化庁によると国史跡の石清水八幡宮境内の参道で土砂崩れが発生するなど、国指定等文化財のうち5箇所が被災したとのことである。

注) 1. 死傷者数は、「平成 24 年 8 月 13 日からの大雨等による被害状況等について」（内閣府作成）の数値を使用。

2. 死傷者数は、台風による風害等を含む数値である。